

科目名	与薬に伴う援助技術	対象学年・時期	2 年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1 単位・30 時間
授業概要	<p>看護師は医師の指示に基づき診療に伴う検査・治療・処置の一部の実施や、看護援助を行う。診療の場面では侵襲を伴うものが多く、対象の心身に苦痛を与えるものも少なくない。また、看護師の活動の場が病院から地域へと多様な場に広がることで、看護師には医療職者として健康状態の解釈や適切な判断・行動が求められる。そのため、科学的根拠に基づき対象者へ安全・安楽・的確(正確)に実施することの重要性と実施するための基礎的な知識・技術・態度を学ぶことは不可欠である。ここでは、治療や処置の際に看護師が関わることの多い与薬に伴う看護援助について、実施できるための知識・技術・態度を学ぶ。</p>		
授業形態	講義および学内実習		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬に伴う援助の必要性和原理・原則に基づく正確で確実な看護技術が理解できる。 2. 与薬に伴う看護技術を原理・原則に基づいて正確・確実に実施できる。 3. 与薬を受ける患者の心理を理解し、患者の受ける苦痛とプライバシーに配慮することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 与薬時の基礎知識① 看護者の役割と責任 2 回目 与薬時の基礎知識② 薬剤管理(麻薬管理含む)と実施 3 回目 与薬の実際(演習) 点眼と座薬の実施 4 回目 バイアル・アンプルの取り扱い方・使用機材の管理(学内実習) 5 回目 筋肉内注射 学内実習① 中殿筋・三角筋への実施 6 回目 筋肉内注射 学内実習② 技術確認 7 回目 筋肉内注射 学内実習③ 技術確認 8 回目 皮内・皮下・静脈内注射の基礎知識 9 回目 静脈内注射 学内実習 10 回目 点滴静脈内注射 学内実習 11 回目 皮内・皮下注射 学内実習 12 回目 中心静脈内注射の管理、輸液・シリンジポンプの管理の基礎知識 13 回目 輸液ポンプ・シリンジポンプ操作 学内実習 14 回目 輸血 15 回目 終講試験 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座専門分野 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」第18版 任和子著 医学書院 ・系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能1「解剖生理学」第11版 坂井建雄著 医学書院 ・系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3「薬理学」第14版 吉岡光弘著 医学書院 		
事前・事後学修	<p>事前学修・・・各注射法の種類と関連事項(解剖の部位、方法、留意点、使用する機材等)および技術習得のための自己練習 既習の知識の振り返り(無菌操作/感染対策/侵襲を受けることの対象にとっての意義/事故防止)</p>		

評価基準および評価方法	筆記試験 教員 2 名で講義を担当する為 1 人 50%ずつ配点とする。どちらかが 6 割に満たない場合、最終成績は 6 0 点とする。
備考	

字体は MS 明朝

字の大きさは 10.5 ポイント

列の設定・余白は変えないでください